

千葉大学医学部附属病院で胃癌肺転移に対し手術を受けた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年7月31日

呼吸器外科

呼吸器外科では、胃癌肺転移切除後の予後に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2012年1月1日～2024年3月31日の間に

- ①胃癌肺転移に対し手術を受けた方
- ②大腸がん肺転移に対し手術を受けた方
- ③胃がん手術の既往があり肺癌に対し手術を受けた方

1. 研究課題名

「胃がん肺転移術後の生命予後に関する単施設コホート研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2028年12月31日

この研究は、千葉大学附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

胃がんは日本人に多いがんで、病気にかかる割合で第3位、死亡率第3位です。胃癌の再発パターンには、腹膜再発、肝臓への血行性転移、リンパ節局所再発などがありますが、胃癌からの単発肺転移自体が少なく、胃がん肺転移が肺切除の対象となることはまれです。胃癌肺転移患者の手術成績を示した観察研究はほとんどなく、治療内容に関する情報の蓄積が望まれており、より良い治療を探索することが課題と考えます。

また、胃がんに対する胃切除後に肺切除を行うこと自体が、一部の患者さんにとっては過大な治療内容となり得る可能性があると考えられます。術後の活動性や栄養状態、

生活の質の評価することが胃がん肺転移症例の手術適応を考察する上で重要となりますが、そのような視点から手術適応を検討された報告は依然少ないです。

本研究では、当科で胃癌肺転移に対して手術を行った患者様の臨床情報を解析し、安全性、有用性、治療後の生存期間を検討します。

4. 研究に用いる情報の種類

該当症例において2024年8月31日までの治療成績、早期合併症、遅発性合併症、画像情報、採血項目、病理所見に関する解析を行います。新たに採取する試料はありません。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：呼吸器外科 教授 鈴木秀海

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院呼吸器外科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

呼吸器外科 助教 豊田行英

043（222）7171 内線5464